

## 1. 過年度の卒業生に対するアンケート調査（卒業生調査）

### (1) 調査の目的

学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証し、本学の教育の質や内部質保証の実質化を強化する取組みの一助とする。

### (2) 調査の対象

2018年度（2018年9月及び2019年3月）、2013年度（2013年9月及び2014年3月）、2008年度（2008年9月及び2009年3月）の卒業生のうち有効な住所データが登録されている者・2,847名

### (3) 調査の方法

封書による協力依頼、Google フォーム又は用紙返送による回答収集

### (4) 調査の期間

2024年12月初旬～2025年1月末

### (5) 主な調査項目

志望順位、授業科目や課外活動についての熱心度、在学中の能力・知識の変化、教育・研究の満足度、在学中の生活全般の満足度、初職・転職・離職、大学生時代に身につける能力の重要度

### (6) 回収状況

全2,847件中、回答378件・回答率13.3%

### (7) 調査結果の概要

アンケートの回収率が378件（13.3%）と低かったため、回答者が母集団を代表しているとは言い難いという課題があり、本結果は参考資料的位置づけであることを前提とする。アンケート実施に関する課題として回答率の低さがあるため、今後の実施においては、20%を超えることを基準ラインとし、回収率30%を超えることを目標値とする。調査結果の概要としては以下のとおりである。

- 1) 回答者は概ね充実した学生生活を送った者であり、一般教養や専門知識のほか協働能力や人間関係構築能力・コミュニケーション能力が向上したと評価するものが多かった。
- 2) 本学の教育・研究には約65%が満足（満足・とても満足）と答え、大学時代の学生生活については約84%が満足していたと回答している。教育・研究についても、大学生活同様に80%を超えることを目標値としていきたい。
- 3) 卒業後最初に就いた職業については、68.8%がほぼ志望通りか第1志望であったと答えている。これについても80%を当面の目標としていきたい。
- 4) 社会経験を踏まえて大学生時代に身につける能力の重要性を問う項目では、人間関係構築力や協働能力、コミュニケーション能力を重視する意見が多い一方、異文化・外国語・グローバル関係のスキルを重視する意見は低かった。これは回答者の属性によるものと推測されるが、さらに社会的なニーズも調査しながら、今後のカリキュラム改編等において参考としていきたい。

(8) 調査結果（抜粋）

卒業年度

1_2018 (平成30) 年度【2018年9月及び2019年3月】	34.1%
2_2013 (平成25) 年度【2013年9月及び2014年3月】	34.9%
3_2008 (平成20) 年度【2008年9月及び2009年3月】	30.4%
99_無回答	0.5%

学部学科

1_経済学部経済学科	27.5%
2_経営学部経営学科	29.6%
3_人文学部英語英米文学科	8.7%
4_人文学部社会学科	11.9%
5_法学部法学科	15.9%
6_薬学部医療薬学科	6.3%

本学の志望順位

1_第1志望	54.2%
2_第2志望	34.4%
3_その他	11.1%
99_無回答	0.3%

大学の授業科目や課外活動についてどの程度熱心に取り組んだか

	0_取り組まなかった	1_不熱心	2_やや不熱心	3_どちらともいえない	4_やや熱心	5_熱心	88_指定外の回答	99_無回答
[A. 全学教育（一般教養科目）]	0%	2%	6%	31%	46%	14%	0%	0%
[B. 外国語科目]	1%	4%	14%	32%	29%	20%	0%	0%
[C. 専門科目（実験除く）]	3%	2%	4%	28%	41%	22%	0%	0%
[D. 専門科目（実験）]	24%	2%	5%	32%	23%	12%	0%	1%
[E. ゼミや実習]	1%	1%	5%	20%	40%	32%	0%	1%
[F. 卒業論文・卒業研究]	9%	2%	6%	24%	32%	25%	0%	1%
[G. 部・サークル活動]	19%	5%	12%	13%	20%	30%	0%	1%
[H. 資格の取得]	13%	5%	17%	21%	24%	19%	0%	1%
[I. アルバイト]	6%	1%	6%	19%	33%	35%	0%	0%
[J. ボランティア]	31%	6%	16%	25%	15%	7%	0%	0%

在学中を振り返って能力や知識がどのように変化したか

	1_大きく減った	2_減った	3_変化なし	4_増えた	5_大きく増えた	99_無回答
[A. 一般的な教養]	0.0%	0.5%	14.3%	71.7%	13.0%	0.3%
[B. 分析力や問題解決能力]	0.0%	0.3%	29.1%	54.8%	15.6%	0.3%
[C. 専門分野や学科の知識]	0.0%	0.3%	21.4%	54.2%	23.5%	0.5%
[D. 批判的に考える能力]	0.0%	2.1%	43.4%	41.0%	13.2%	0.3%
[E. 異文化の人々に関する知識]	0.3%	2.4%	44.4%	37.3%	15.1%	0.5%
[F. リーダーシップの能力]	1.1%	1.6%	47.6%	35.4%	14.0%	0.3%
[G. 人間関係を構築する能力]	0.5%	1.3%	16.9%	51.6%	29.4%	0.3%
[H. 他の人と協力して物事を遂行する能力]	0.5%	1.1%	16.9%	54.0%	27.2%	0.3%
[I. 異文化の人々と協力する能力]	0.8%	4.8%	57.9%	25.9%	10.1%	0.5%
[J. 地域社会が直面する問題を理解する能力]	0.5%	3.7%	50.3%	35.7%	9.3%	0.5%
[K. 国民が直面する問題を理解する能力]	0.8%	4.0%	55.6%	32.3%	6.9%	0.5%
[L. 文章表現の能力]	0.5%	2.4%	34.7%	49.7%	12.4%	0.3%
[M. 外国語の運用能力]	1.6%	5.8%	53.4%	29.6%	9.0%	0.5%
[N. コミュニケーションの能力]	0.3%	0.8%	20.6%	52.9%	24.9%	0.3%
[O. プレゼンテーションの能力]	0.5%	1.9%	36.0%	47.4%	13.8%	0.3%
[P. 数理的な能力]	1.6%	5.6%	60.6%	28.0%	4.0%	0.3%
[Q. コンピュータの操作能力]	1.3%	2.4%	32.0%	46.8%	17.2%	0.3%
[R. 時間を効果的に利用する能力]	0.0%	2.9%	30.2%	49.5%	17.2%	0.3%
[S. グローバルな問題の理解]	2.1%	5.3%	57.9%	26.7%	7.7%	0.3%
[T. 就職に向けた情報収集能力]	1.1%	1.9%	29.9%	47.9%	19.0%	0.3%

大学時代の最も長期の留学経験

1_渡航したことはない	84.7%
2_10日未満	1.1%
3_10日以上1ヶ月未満	7.1%
4_1ヶ月以上6ヶ月未満	4.5%
5_6ヶ月以上	2.6%

本学の教育・研究の満足度

1_とても不満	0.5%
2_不満	0.8%
3_どちらとも言えない	32.5%
4_満足	51.6%
5_とても満足	14.3%
99_無回答	0.3%

大学時代の生活全般の満足度

1_とても不満	0.5%
2_不満	1.1%
3_どちらとも言えない	13.8%
4_満足	56.9%
5_とても満足	27.5%
99_無回答	0.3%

初職の就業形態

1_無期雇用（正社員（任期付きを除く））	89.9%
2_有期雇用（フルタイム勤務）	6.3%
3_有期雇用（短時間勤務）	1.6%
4_その他 自営など	1.1%
5_仕事についてたことがない	0.8%
88_指定外の回答	0.3%

初職の業種

01_農林漁業	0.5%	13_生活関連サービス業、娯楽業	4.0%
03_建設業	4.2%	14_教育、学習支援業	3.2%
04_製造業	7.9%	15_医療、福祉	11.4%
05_電気・ガス・熱供給・水道業	1.1%	16_公務（他に分類されないもの）	13.8%
06_情報通信業	5.0%	17_その他	5.3%
07_運輸業、郵便業	3.7%	88_指定外の回答	0.3%
08_卸売業、小売業	16.4%	99_無回答	1.6%
09_金融業、保険業	15.6%		
10_不動産業、物品賃貸業	3.2%		
11_学術研究、専門・技術サービス業	2.1%		
12_宿泊業、飲食業	0.8%		

初職の志望度

1_全く納得していない	2.1%
2_やや不満	5.8%
3_どちらでもない	22.2%
4_ほぼ志望どおり	32.5%
5_第1志望	36.2%
99_無回答	1.1%

社会経験を踏まえて大学生時代に身につける能力の重要性はどの程度あると考えるか

	1_重要ではない	2_どちらかといえば重要ではない	3_どちらともいえない	4_どちらかといえば重要	5_重要	99_無回答
[A. 一般的な教養]	0.0%	2.6%	7.7%	36.2%	53.2%	0.3%
[B. 分析力や問題解決能力]	0.0%	1.1%	7.9%	38.1%	52.6%	0.3%
[C. 専門分野や学科の知識]	2.4%	7.9%	29.1%	36.2%	24.1%	0.3%
[D. 批判的に考える能力]	1.6%	4.2%	31.7%	39.7%	22.5%	0.3%
[E. 異文化の人々に関する知識]	2.4%	8.7%	34.1%	39.4%	15.1%	0.3%
[F. リーダーシップの能力]	0.3%	2.1%	15.6%	43.4%	38.4%	0.3%
[G. 人間関係を構築する能力]	0.0%	0.0%	3.4%	23.0%	73.3%	0.3%
[H. 他の人と協力して物事を遂行する能力]	0.0%	0.3%	5.0%	25.7%	68.8%	0.3%
[I. 異文化の人々と協力する能力]	2.4%	8.5%	37.3%	37.8%	13.8%	0.3%
[J. 地域社会が直面する問題を理解する能力]	1.1%	6.6%	26.7%	44.2%	21.2%	0.3%
[K. 国民が直面する問題を理解する能力]	1.6%	6.1%	29.4%	43.1%	19.6%	0.3%
[L. 文章表現の能力]	0.0%	0.8%	10.8%	37.3%	50.8%	0.3%
[M. 外国語の運用能力]	4.2%	7.4%	35.7%	34.9%	17.2%	0.5%
[N. コミュニケーションの能力]	0.3%	0.3%	3.4%	21.2%	74.3%	0.5%
[O. プレゼンテーションの能力]	0.5%	1.6%	14.0%	36.5%	46.8%	0.3%
[P. 数理的な能力]	0.5%	4.8%	28.6%	44.7%	21.2%	0.3%
[Q. コンピュータの操作能力]	0.3%	0.5%	6.1%	34.4%	58.2%	0.3%
[R. 時間を効果的に利用する能力]	0.0%	1.1%	5.8%	27.5%	65.3%	0.3%
[S. グローバルな問題の理解]	2.9%	7.9%	37.8%	34.7%	16.4%	0.3%

## 2. 卒業生の就職先等の進路先の意見聴取等の調査（進路先調査）調査概要

### (1) 調査の目的

学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証し、本学の教育の質や内部質保証の実質化を強化する取組みの一助とする。

### (2) 調査の対象

キャリアセンターが主催する松山大学合同企業セミナーへの申込み企業・団体のうち、有効なメールアドレスが把握できている企業・団体 141 社

### (3) 調査の方法

メールによる協力依頼、Google フォームによる回答収集（セキュリティ方針により Google が使用できない場合は Excel ファイルにて対応）

松山大学に関する意識調査及び卒業生に関する評価の 2 部構成で実施

### (4) 調査の期間

2025 年 7 月 14 日（月）～8 月 31 日（日）

### (5) 主な調査項目

松山大学に関する意識調査

本学の教育活動・本学の取組み・卒業生が身に付けている力の評価、総合的な満足度、今後の連携や要望等

松山大学の卒業生に関する評価

採用選考時の評価・入社後の評価、総合的な満足度、在職・離職状況

### (6) 回収状況

全 141 件中、回答 102 件・回答率 72.3%

### (7) 調査結果の概要

今回は初回であったため、アンケートを送付した企業数が限られていたが（141 社）、アンケートの回収率は 72.3%と高かった。今回は松山大学合同企業セミナーに参加している企業を対象としたが、今後、対象企業を広げ、250 社を目標値とする。調査結果の概要は以下のとおりである。

- 1) 全体的には高評価であったが、記名式であったことを考慮し判断すると、「どちらともえない」は「不足している」程度、「やや不足している」は「不足している」というように、一段下げて判断する程度が妥当だと考えられる。
- 2) 本学についての評価では、教育活動において「一般教養」に力を入れていると評価されており、本学の取組としては「地域社会とのかかわり」や「学習環境の整備」の評価が相対的に高い一方で「研究成果等の地域への還元」が不足していると評価されていることが特徴であった。教育活動については、一般教養が高いと判断するよりも、他の教育活動を一般教養程度まで上げていくことが必要と考えられる。また、各教員の研究成果等を地域に還元できるよう URA の養成等に力を入れていく必要がある。
- 3) 松山大学の学生が身に付けている力として、全学のディプロマ・ポリシーに掲げている 5 つの項目を挙げた設問では、コミュニケーション能力が比較的高く評価された一方で、専門知識と教養についての評価は相対的には低かった。この点は、学生の知識や教養を測る方法やカリキュラム等の検討を要する点であると考えられる。
- 4) 個別の卒業生の採用に関しては、人柄や意欲を評価する回答が専門性や筆記試験の結果よりも

圧倒的に多い。

- 5) 個々の卒業生に対する評価は、あくまでサンプル調査としての結果ではあるが、「コミュニケーション力・対人力」及び「チームワーク・協調性」が評価されている一方で、「専門知識」「外国語運用能力」「ICTの知識・技能」が不足している印象を持たれていることが示されている。この点は、全学的な問題として引き続き検討が必要な事項であると考えられる。

(8) 調査結果（抜粋）

① 松山大学に関する意識調査

本学の教育活動

	力を入れている	どちらともいえない	不足している
[一般教養]	83.3%	15.7%	1.0%
[専門教育]	62.7%	35.3%	2.0%
[実践教育]	66.7%	32.4%	1.0%
[社会人としての常識]	74.5%	23.5%	2.0%
[課外活動（スポーツ）]	71.6%	27.5%	1.0%
[課外活動（文化活動）]	67.6%	31.4%	1.0%

本学の取組み

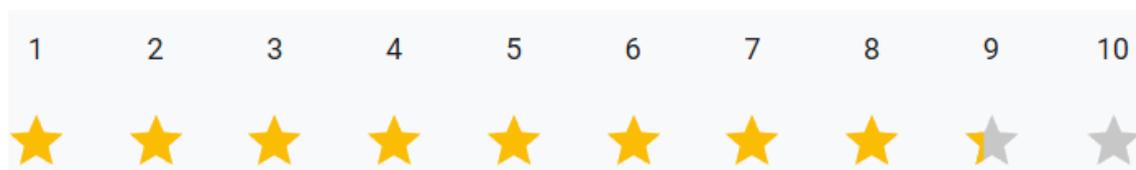
	力を入れている	どちらともいえない	不足している
[地域社会とのかかわり]	81.4%	17.6%	1.0%
[企業連携]	75.5%	21.6%	2.9%
[メディアの活用]	64.7%	34.3%	1.0%
[学生の実践・経験の場の創出]	69.6%	29.4%	1.0%
[学生の学習環境の整備]	83.3%	16.7%	
[研究成果等の地域への還元]	44.1%	53.9%	2.0%

## 卒業生が身に付けている力

	十分身に付けている	ある程度身に付けている	どちらともいえない	やや不足している	不足している
[専攻分野に関する専門知識及び技能と現代社会で必要とされる教養]	14.7%	62.7%	18.6%	3.9%	0.0%
[修得した知識及び技能を社会や生活の中で活用できる実践的能力]	22.5%	60.8%	15.7%	1.0%	0.0%
[多様な人々と相互に理解し合い、協働するために必要なコミュニケーション能力]	50.0%	42.2%	5.9%	2.0%	0.0%
[変化する社会の中で、自ら課題を見つけ、学びを継続できる力]	28.4%	50.0%	18.6%	2.9%	0.0%
[社会や地域、コミュニティの発展に主体的に貢献できる行動力]	30.4%	55.9%	10.8%	2.9%	0.0%

## 本学の総合的な満足度（10点満点）

平均値 8.34



## ② 卒業生に関する評価

対象卒業生を採用しようと思った理由（複数選択可）

1.松山大学だから	39.0%
2.専攻学科・専攻内容	9.3%
3.インターンシップ等での印象	28.8%
4.適性検査の結果	37.3%
5.筆記試験の結果	17.8%
6.意欲	79.7%
7.人柄	93.2%
8.地元出身者だったため	28.8%
その他	8.5%

※この項目は、該当する評価を受けた被評価者の割合を示しています。

### 採用選考時における対象卒業生への印象

	非常に良い	良い	どちらともいえない	悪い	非常に悪い	業務に必要ない
[礼儀やマナー]	45.8%	47.5%	6.8%			
[コミュニケーション力]	44.9%	45.8%	7.6%	1.7%		
[意欲・主体性]	38.1%	49.2%	11.9%	0.8%		
[応募書類の完成度]	33.1%	52.5%	14.4%			
[面接時の対応]	47.5%	49.2%	3.4%			

### 対象卒業生の業務遂行に関するご評価

	非常に良い	良い	どちらともいえない	悪い	非常に悪い	業務に必要ない
[基本的なビジネスマナー]	34.7%	55.1%	9.3%	0.8%		
[専門知識]	11.0%	35.6%	49.2%	0.8%		3.4%
[業務理解力・吸収力]	34.7%	52.5%	10.2%	2.5%		
[コミュニケーション力・対人関係]	52.5%	38.1%	6.8%	2.5%		
[問題解決力・実践力]	26.3%	47.5%	22.9%	3.4%		
[自ら行動する力]	27.1%	48.3%	22.9%	1.7%		
[チームワーク・協調性]	50.0%	42.4%	5.9%	1.7%		
[責任感・粘り強さ]	38.1%	44.9%	13.6%	3.4%		
[学ぶ姿勢・成長意欲]	45.8%	41.5%	11.9%	0.8%		
[外国語運用能力]	2.5%	5.9%	60.2%	1.7%	0.8%	28.8%
[ICTの知識・技能]	4.2%	14.4%	55.1%	5.9%	0.8%	19.5%

### 対象卒業生に対する総合的な満足度（10点満点）

平均値 8.63

